



17日の和多都美神社古式大祭に向け、息を合わせて和船をこぐ豊玉高生徒。右奥に見えるのが、台風10号で倒れた同神社「一の鳥居」
—対馬市、同神社沖

「舟グロー」6年ぶり復活へ

17日に対馬市豊玉町仁位の和多都美神社で6年ぶりに開催される対馬伝統の和船競漕「舟グロー」に向け、地元の県立豊玉高(南波聡校長、64人)の生徒が練習に励んでいる。

対馬・豊玉高生が協力

和多都美神社は対馬中部の浅茅湾最奥部にあり、日本神話に登場する「彦火火出見尊」(山幸彦)と、海神の娘である「豊玉姫」命を祭る。海神が住む「海宮」が同神社沖にあるとの童官伝説が伝わり、5本ある鳥居のうち海側の2本は海中鳥居として対馬観光の名所となっている。

舟グローは櫓こぎの和船の速さを競うもので、同神社では毎年旧暦8月1日(今年は9月17日)の秋祭り「古式大祭」で地域対抗の舟グローを奉納してきた。しかし、地域の高齢化や過疎化を受け2015年以降は休止している。

豊玉高生による舟グローは、同神社の元氏子総代で漁業の川崎英嗣さん(70)＝同町嵯峨＝が6月上旬、「高校生の力で地域の伝統を復活させてほしい」と、同校に提案。

和多都美神社 伝統の競漕 17日奉納

同校も地域の歴史や文化を学び、学年の団結力を高めようと応じ、6月下旬から1年の26人が地域住民の指導を受けて練習している。

10日の練習では和船(全長約12m)2隻を使い、A、Bの2チームに分かれて同神社沖で競漕。海中鳥居までの約200mで競い、Bチームが勝利した。かじ取り役を務めた小島海透さん(16)は「これからもっと上達し、地域の皆さんに僕たちの元気を届けることができれば」と、本番に向けた意気込みを語った。

同神社の平山雄一禰宜(24)は「台風10号で(海中鳥居のうち最も沖側にある)一の鳥居が倒れてしまい地域住民も悲しんでいる。高校生の若い力で、鳥居復活に向けた弾みをつけてもらえたら」と話している。

(緒方秀一郎)